



一般社団法人

◆あそぼう！
 ◆たべよう！
 ◆育ちあおう！
**地域で子どもを育てる
 すくすく広場に、あつまれ！**

すくすく通信 第1号 ©
 2017年1月28日発行
 発行：一般社団法人すくすく広場
 代表：坂本佳代子
 事務局・発行所
 〒347-0031 加須市南町7-67 戸恒方
 Email tozune@outlook.jp
 電話 0480-61-3373

1月8日(日曜日) 第1回すくすくひろばのあそびば

冷たい雨の降る日でしたが、会場の加須ふれあいセンターに18人が集まって、楽しく過ごしました。10時からお絵描きで遊びながらみんなが集まるのを待ちました。大人たちはうちわに七草の絵をかいて、準備をします。集まったところで始めたのは「ふわふわふうせんおぼけ」作りです。濡れた傘を入れるビニールにお花などの絵をかいてから、紙コップに穴をあけ、はじを引っ張り出して、空気の漏れないようにストロー



につなぐと、あら不思議！息を吹き込めば、コップに隠しておいたビニールが、お化けのようによきよきと出てきました。なんだかわからないまま、がまんしてやっていたら、こんなに面白いことになるなんて！ビックリでしたね。

次は「あぶくたった煮え立った」の歌を歌いながら、七草粥の煮えるように、ゴチャゴチャ体を動かしてあそんだあと、いよいよお昼ご飯の準備です。みんなで1階に降りて、ピザのトッピングをしました。自分の分の小麦粉の生地を伸ばし、その上に、たくさん並んだお野菜やベーコンを選んでのせ、チーズをかけます。お台所に運んで、こんどは忙しいおとなの人の分をつくっていると、だんだん、おいしく焼ける香ばしいにおいが、ぷーんと漂ってきました。

この日は、畑から、とれたての新鮮なかぶと里芋を持って来てくださった方がいて、それがとてもおいしいシチューに変身しましたから、やがて

でもおいしいシチューに変身しましたから、やがてみんなは、ふうふうしながらアツアツのピザとシチューを夢中になっていただきました。

お腹がいっぱいになった午後は、2階に上がって、



けん玉やびゅんびゅんごまで遊びました。ほかにも、得意のカルタに人を集めて盛り上がる子や、高く積んだカプラという積み木が崩れる瞬間に大騒ぎする皆さん、じいっと何かをしているなど思っていたらまるで花火のようにパチパチとはじけるスティックボムに熱中していたお兄さんなど、それぞれに楽しい時間が過ぎていきました。

でもそれだけではすまないのが「あそびば」です！この日のクライマックスは、次に全員でやった紅白玉投げ合戦でした。部屋の真ん中に線を引き2チームが向き合います。何百個もある発泡スチロールの玉を向こうの陣地に投げて、少なくした方が勝ち。1分間3セットでまったくへとへとになってしまいました。(おわり)

さよなら

ピエロさんありがとう！

次回は、5年と10か月続いた「ぴえろのあそびひろば」が最後になり、「すくすくのあそびひろば」に生まれ変わる最後の会です。



2月25日(日) 10時から2時

会場は騎西コミュニティセンターです。

一般社団法人すくすく広場について



①設立の経緯

2011年3月11日の東日本大震災の原発事故の直後から、多くの福島県浜通りの県民は、はじめに埼玉アリーナに避難しました。その後、その内の双葉町民は加須市の旧騎西高校に避難し、現在に至るまで帰還の見通しも立っていないことは、皆さんご承知の通りです。

最初のアリーナでは、子どもたちは一見元気にはしゃいでいましたが、この時いち早く駆けつけた日本臨床発達心理士会埼玉支部は、「子どもたちが何でもないはずがない！ともかく昼間に大人を気にせず過ごせる場所を確保しなければ」と、県に交渉して提供してもらい、毎日開き続けたのが「ぴえろのあそびひろば」です。騎西高校へ移転後も、学生ボランティアや他の団体と力を合わせ、隔週にこの活動を続けました。

2年半が経ち、騎西高校が閉鎖されたのちも騎西コミセンを会場にして継続し、さらにいわき市に移転した方が増えるにつけ、その方達の要望に答える形で、いわきと加須で開催して、今日に至りました。

事故から5年半が経ち、加須では子どもたちも地域の子もたちとも馴染み、遊びを自分で見つけるようになってきて、このところの参加者は、加須の地元の親子が増えているという傾向があります。若いおかあさんたちが子育ての悩みを語るケースも増えていること、子どもたちのなかには食事が十分とれていない子どもがいること、進路や学習の悩みを抱えている子どもがいることなどの問題があることが見えてきました。

こうした時、昨年春、加須ふれあいセンター

での出会いがきっかけで、思いを共有する加須の市民が合流して、スタートしたのが「すくすく広場」です。

②すくすく広場がスタート

すくすく広場は2016年12月23日、市民プラザ加須で設立総会を開き、一般社団法人すくすく広場として正式にスタートしました。

この法人は、子どもの健やかな育ちを守り進めていくとともに、保護者や関係者の養育についての支援も併せて行い、地域コミュニティの中で安心して暮らせる基盤づくりに寄与することを目的（定款第3条）としています。

先ず実践することとして、月に1回、昼間の遊びと昼食作りの活動を行います。つぎに、週に1回、夕方からの活動として身近な学習と夕食（小さな子ども食堂）の場を作っていきます。

…夢中になっていると6時を過ぎる頃、暖かなご飯が用意され、お仕事から帰ってきた親御さんも一緒に交じって過ごしたり、一緒に帰っていったり…。ごはんづくりも、たくさんの可能性を持った共働の場になるでしょう。親同士の会話も弾むでしょう。（趣意書より）

このように、老若男女それぞれが、それぞれの良さを発揮し合って、一緒に作り上げる身近な場になることを望んでいます。

メンバーには、子育てのベテランはもちろん、将棋やマジックの達人、調理師、元幼・小・中・高の教員・校長、心理学者、相談員、社会福祉士、会計士、美容師…が含まれていて、会場の提供をしてくれる方もいます。1月末現在正会員27名、賛助会員19名ですが、周囲に賛同して応援してくださる方が本当にたくさんいることも特徴です。現在の理事会スタッフは、理事長坂本佳代子、副理事長金谷京子、専務理事戸恒和夫、理事浦部牧子（会計）、理事石井かつ子、赤嶺菊江、関口一夫、丸山綱男、監事野瀬慎一ですが、この力で、市内での講演会や研修会などの活動や、相談活動も進めていきます。

政党や宗教の違いを越え、子どもたちへの思いを共有する市民の会です。ご賛同くださる方のご参加を心よりお待ちしております。

★すくすく広場 3月活動 3月19日(日)
10時～14時会場：加須ふれあいセンター